

川原圭祐 | かわはら・けいすけ

株式会社島津製作所 医用機器事業部技術部 副主任



川原圭祐

—
2018年度
大学院工学科学研究科
博士前期課程
情報工学専攻 修了



Fig.1——仕事の様子



Fig.2——卒業式の様子

充実した環境で、 キャリアの扉が開けた

私は高等専門学校を卒業し、学部3回生から京都工芸繊維大学に編入学しました。同回生と馴染めるのが不安でしたが、私と同じように編入学をした学生も多く、そこからネットワークを広げていきました。研究室に所属してからは、友人、先輩、後輩に恵まれ楽しい大学生活を送ることができました。

私の所属していた研究室では、毎年春頃、教授がご自宅に招待くださり、研究室OBの方々や食事をする機会がありました。さまざまな企業に就職された先輩方の生の声を聞いたことは、就職活動をする上で非常に参考になりました。京都工芸繊維大学は就職に強く、多方面で活躍されている方がたくさんいます。そういった方々とつながれるのは、京都工芸繊維大学ならではの魅力だと思います。

この大学で教授や友人たちと学ぶことができ、京都という場所でさまざまな歴史や文化に触れられた大学生活は私を大きく成長させてくれたと思います。

機器・システムの開発を通じて 医療に貢献

就職活動は、関西のメーカーを中心にエントリーしました。その中で私は「科学技術で社会に貢献する」という社是に共感し、島津製作所に入社を決めました。

入社後は、医療機器の設置を行うサービスエンジニアを技術支援する部署に配属となりました。主な職務内容は、サービスエンジニアの教育、現場で発生したトラブルの解決です。回路図や機械図面を読んで、基盤やメカ周りの故障箇所を特定することが求められました。大学時代は情報工学を専攻していたため、メカや電気の知識は多くありませんでしたが、制御工学や電気工学の授業で学んだ知識が役に立ちました。現在は技術部に異動となり、プログラミングの知識を生かしてクラウド型電子カルテ

システムの開発に携わっています。異動となった現在でも、前の部署で身に付けた経験と知識は私の大きな強みになっています。

医療機器の開発は専門知識だけでなく、厳格な規制や品質管理、安全性への配慮が求められます。大変な仕事ではありますが、やりがいを感じながら仕事に励んでいます。

後輩へのメッセージ

チームで何かをやり遂げる経験をしてほしいと思います。研究活動は、他の学生とはテーマが違うため個人プレーとなりがちですが、社会人になるとチームで仕事を行うことが増えます。1つ製品をリリースするだけでも、開発、製造、サービス、品質管理などさまざまな部署のメンバーとの協力が不可欠です。私が大学院を卒業する年、研究室でお世話になった教授が退官されました。研究室OBの方々や教授のご家族の協力のもと、当時の研究室のメンバーと退官パーティーを開催した経験は、社会人になった今でも役に立っています。

また、チームで仕事を行う上で重要になるのが、スケジュール管理とコミュニケーションです。研究室では時間にとらわれることなく研究活動をすることができました。しかし、社会人になるとそうはいきません。一人の遅れはチームの遅れにつながるため、限られた時間の中で、いつまでに何をするかスケジュールを立てて行動することが重要になります。

さらに、異なるバックグラウンドを持つ人々と共通認識を持つには、コミュニケーションが重要です。相手に自分の意思を正確に伝えることは、プロジェクトの成功に直結します。コロナ禍で直接対話する機会が減少したかもしれませんが、京都には多数の大学があり、他大学との交流が可能です。また、京都工芸繊維大学では留学生を積極的に受け入れています。ぜひ異なるバックグラウンドを持った人とコミュニケーションをとってみてください。

高等専門学校からの編入学にチャレンジ。
大学で得た知識や経験、ネットワーク全てがキャリアの糧に。